

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

宮城県 門川町

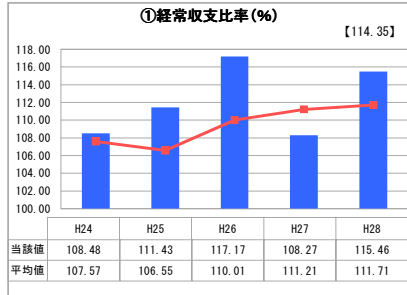
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	51.43	94.67	2,160	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,437	120.51	152.99
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
17,396	11.88	1,464.31

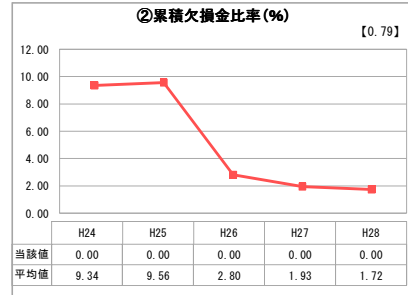
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

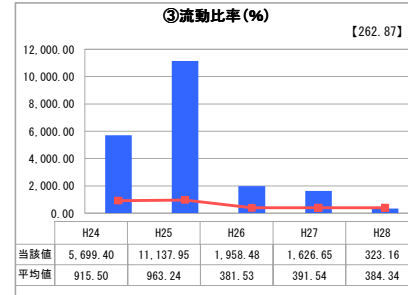
## 1. 経営の健全性・効率性



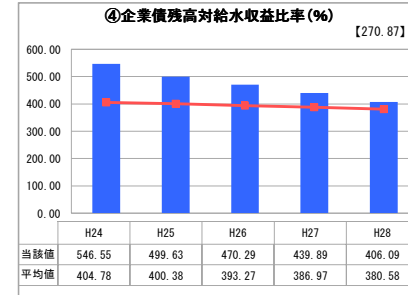
「経常損益」



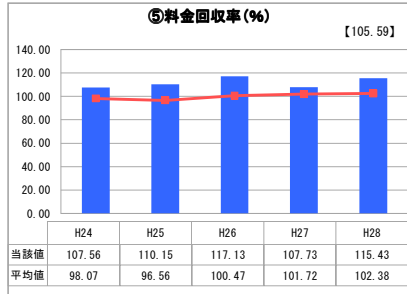
「累積欠損」



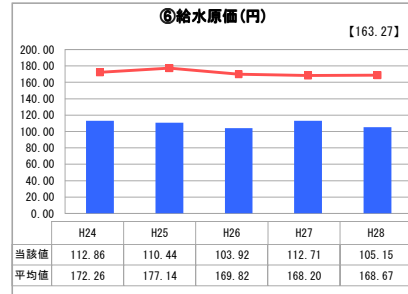
「支払能力」



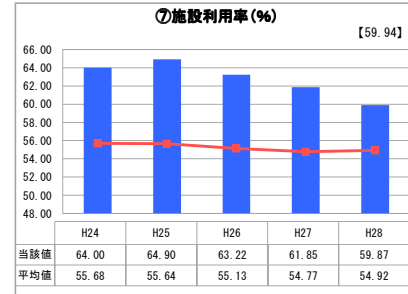
「債務残高」



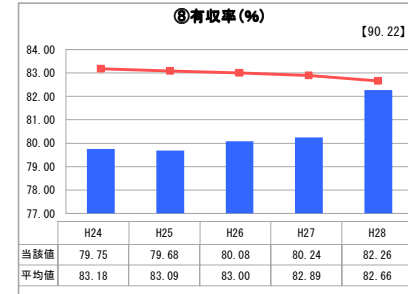
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

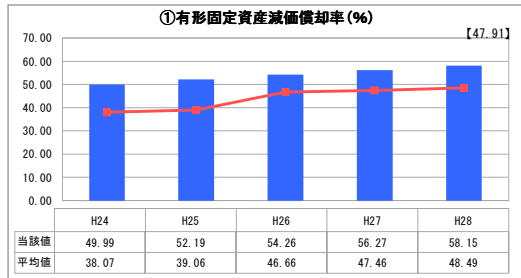


「施設の効率性」

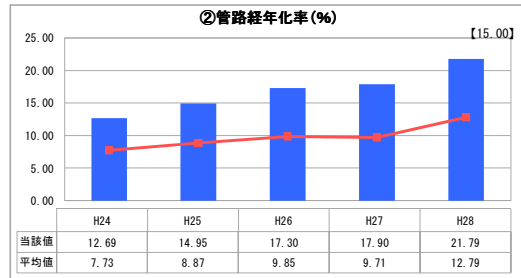


「供給した配水量の効率性」

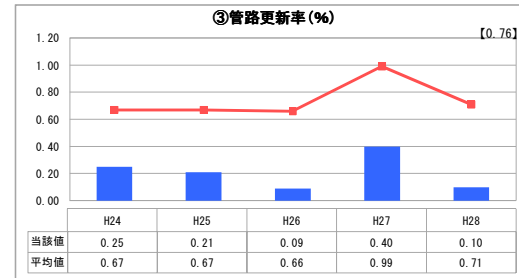
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」及び「料金回収率」については、100%を超えており、現在のところは健全な経営を維持しています。しかし、今後は給水人口の減少等により給水収益が減少する見通しであり、財源確保を検討する必要があります。

「流動比率」については100%を超えており、短期負債への支払い能力は確保されており、「企業債残高対給水収益比率」についても、平成18年度以降起債を行っていないため、年々減少傾向にあります。

「施設利用率」については、類似団体平均を上回っているものの配水量の減少により年々低下傾向にあります。

「有収率」は以前より全国平均や類似団体平均を下回っていたものの、平成28年度は水圧調整等の配水システムの見直し等により漏水が減少したため、約2ポイント向上しました。今後も漏水調査、布設替等による有収率の向上を目指します。

### 2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」及び「管路経年化率」は共に全国平均、類似団体平均を超えており、資産の老朽化が進んでいることを示しています。その状況下でありながら財源不足により「管路更新率」も平均を下回っている現状です。

今後は、H29年度に策定予定のアセットマネジメントを参考にしながら計画的に、耐震化も含めた老朽化施設の更新を行っていく必要があります。

### 全体総括

現在、強靱な水道システム構築を目指し平成29年度にはアセットマネジメント及び水道管路耐震化計画、平成30年度には経営戦略を策定予定です。今後は、耐震化も含めた計画的な施設の更新が必要となります。

そのためには財源の確保が不可欠です。給水人口及び水需要の減少という状況下での財源確保の為、料金改定も視野に入れながら検討します。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。